令和5年度　大田区立千鳥小学校　自己評価　報告書

令和6年1月20日

○　本校の概要

○児童数　338名　○学級数11学級（令和5年5月1日現在）
○教育目標「心やさしくじょうぶな子」「進んでやりぬく子」「よく考え工夫する子」
○学校経営の基本方針　「子供たちがわかる楽しさや　まなぶ喜びを感じられる授業をめざし、子供たちに確かな学力の定着を図る。」「体力の向上を図るとともに、基本的生活習慣を身に付け、心身ともに健やかな子供たちの成長を支援する。」
○本校の特色　・千鳥スタンダードの実践・ロング昼休み（月2回）の励行・学校支援地域本部（チーム千鳥地域協力隊）の支援を受けた教育活動の充実

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
プラン1　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	3.2	◇児童の自己評価で、「学校生活は楽しい。」「授業では新しいことや難しいことにも進んで取り組んでいる。」と回答した児童の割合 ◆保護者の学校評価で、「学校は、子供一人一人を大切にしている。」「学校は、学力の定着と学習意欲の向上に向けて、ICT機器を効果的に活用している。」と回答した保護者の割合	4：どちらも90%以上 3：どちらも80%以上 2：どちらも70%以上 1：いずれも70%未満	4	・外国語活動の計画的な実施や英語カフェの取り組みに加え、ALT自らが昇降口や校内を回り、児童と英語でやりとりする機会を増やしている。今後も継続し、多くの英語に触れる機会をもたせたい。 ・R7年度の「おおた未来づくり科」開始に向けて、指導計画や外部機関とのつながりを作っていく予定である。 ・一人一台のタブレット端末を活用した授業や、欠席児童に向けたオンライン授業の実践を重ねている。発言が苦手な児童や、書くことが苦手な児童もタブレットでなら自分の考えを表現できることもあり、今後も使用方法を工夫して、児童の理解向上に繋げていく。 ・人権に関する意識を高めるため、11月に人権週間を初めて設定した。人権集会では、全学級で作成した人権標語を互いに発表することができた。人権に関する授業も全学級で行い、人権意識を高めることができたので、これからも人権意識を高める取り組みを続けていく。 ・休み時間に、教員が児童と一緒に遊ぶ「とも遊び」の取り組みや長縄チャレンジを行った。積極的に体を動かす機会を設けることで、基礎体力の向上や運動する機会を増やしたりできる動きが増えたりしている。今後も、運動できる環境や声かけを続けていく。	A	8	・周辺地域の中学1年が「小学校で英語が嫌いになった。」という声を聞いたことがあるので、小学校では「英語は楽しい」というイメージを育てて欲しい。 ・児童の成長が、楽しみ。 ・予測不可能な時代と言われる現代において、子供たちの生き抜く為の体力づくりとなるような素晴らしい目標。苦労も少なくなかったと思う。 ・新しい教材であるタブレットを上手に使うことは、教員も大変だと思う。 ・タブレットなど、SNSのメリットは大きいものと思うが、利用するにあたってのデメリットや注意点を常に言っていくことが大事だと思う。 ・ALTの先生が、本当によく子供たちに声をかけてくれて、下校時には必ず靴箱の所に立っている姿を見て、素晴らしいと思う。 ・児童一人一人に対して向き合い、目線も合わせて育成に取り組んでいる。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4：全教員が行った。 3：80%以上の教員が行った。 2：60%以上の教員が行った。 1：60%未満であった。	2.2					B	2	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4：80%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 3：70%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 2：60%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 1：60%未満であった。	3.3					C	0	
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：80%以上で行った。 2：60%以上で行った。 1：60%未満であった。	3.1					D	0	
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	2.5							
プラン2　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習効果測定の結果を基づき、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：80%以上で行った。 2：60%以上で行った。 1：60%未満であった。	3	◇児童の自己評価で、「授業で学習したことがよくわかる。」と回答した児童の割合 ◆保護者の学校評価で、「学校は、算数少人数指導や補習を生かし、一人一人の学力や課題に応じた指導に努めている。」「教員は、わかりやすい授業のために工夫をしている。」と回答した保護者の割合	4：全て90%以上 3：全て80%以上 2：全て70%以上 1：いずれも70%未満	4	・4年生以上は、学習効果測定の結果をもとに、今後の学習の方針や目標についてカウンセリングを行った。授業中も、一人一人に細やかな指導ができるように、教材研究や指導力向上のための研修を充実させていく。 ・全学年、タブレットドリルを計画的に進めている。ステップ学習チェックシートが埋まるように学年主任を中心に行っている。学期末には、それを保護者へ示している。 ・算数補習は、「2年」「3・4年」「5・6年」のローテーションで毎週水曜日に実施している。補習を担当している学習補助員とも連携を継続し、よりよい時間にしていく。 ・小規模校のよさを生かし、授業改善プランの作成に全教員が関わった。今後も、児童の実態に即した指導を重ねていく。	A	9	・算数補習を2年生から始めているのは、良いことだと思う。定着に時間がかかる児童の指導は大変だと思うが、家庭と連携して推進していってほしい。 ・一人一人に合わせた教育を進めていて、とても良いと思う。 ・児童一人一人の顔がよく見えているように思います。 ・一人一人によく手が行き届いていると思う。算数力アップが復活したのは良かったと思う。できれば、回数をもう少し増やしてあげたいと思う。 ・授業だけでなく、少人数指導や補習まで充実していると思う。タブレットも有効活用されている。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3：学期毎に知らせた。 2：年度間に1回は知らせた。 1：お知らせできなかった。	3.3					B	1	
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4：対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3：80%以上の教員が働きかけた。 2：60%以上の教員が働きかけた。 1：60%以下の教員が働きかけた。	3.4					C	0	
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	3.2					D	0	
プラン3　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4：全教員が行った。 3：80%以上の教員が行った。 2：60%以上の教員が行った。 1：60%未満であった。	3.2	◇児童の自己評価で、「自分や友達のことを大切にしている。」「進んで挨拶をしている。」「きまりを守って行動している。」と回答した児童の割合 ◆保護者の学校評価で、「やさしく思いやりのある子に育ってきている。」「子供たちは、きまりを守っている。」「学校は、子供たちの問題行動の未然防止、早期発見、早期対応に努めている。」と回答した保護者の割合	4：全て90%以上 3：全て80%以上 2：全て70%以上 1：いずれも70%未満	3	・道徳授業地区公開講座では、外部講師を招聘し講演を行った。保護者や地域・家庭と学校が協力して子供を育てることについて考える、大変有意義な時間になった。 ・学校生活アンケートやWeb-QUアンケートを実施し、気になる児童については聞き取りを実施した。今後も、児童が安心できるよう個別に対応していく。 ・「いじめは、あってはならないこと。」を学校全体で指導している。いじめの未然防止・早期発見・早期対応のために、校内で情報を共有し、組織的に対応している。 ・毎週金曜日に、児童の様子について報告する会議を設定し、全教員で情報を共有している。また、スクールカウンセラーとも連携し、児童への対応をしているケースもある。今後も、組織的に対応するようにしたい。 ・千鳥スタンダードを教職員で共有し、生活指導上のきまりを指導することができた。	A	8	・コロナウイルス感染症のせいで、コミュニケーションが取りづらかった時、児童の心のストレスがたまりいじめ等が増えたということがあったようだ。きめ細かな指導も時には必要なこともあるので、よろしくお願いしたい。 ・いじめに対し、絶対あってはならないという姿勢でとても良い。 ・私には、あまり見えなかった取り組みだが、取り組みとしてはとても良いと思う。 ・他校に比べても、やさしい思いやりのある子供たちが非常に多いと思う。PTAでも、できることは相談してほしい。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3：学期に1回（年間3回）以上行った。 2：年度間に1回以上行った。 1：実施しなかった。	2.7					B	2	
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	3.1					C	0	
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	3.3					D	0	
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4：必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3：必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2：必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1：必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	3.3							
		千鳥スタンダードに基づいた生活指導を推進する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	3.3							
プラン4　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	3.4	◇児童の自己評価で、「運動が好きで、進んで体を動かしている。」「『早寝・早起き・朝ごはん・挨拶・宿題できたかな』を守り、元気に生活しようと心がけている。」と回答した児童の割合 ◆保護者の学校評価で、「学校は、子供の運動習慣が確立する工夫をしている。」「子供は、規則正しい生活習慣を意識しながら生活している。」と回答した保護者の割合	4：全て90%以上 3：全て80%以上 2：全て70%以上 1：いずれも70%未満	3	・「早寝・早起き・朝ごはん・あいさつ・宿題できたかな」月間の取り組みを行い、生活習慣や礼儀作法、コミュニケーション能力について、児童・保護者へ啓発を行っている。引き続き、あいさつの励行を進めていく。 ・給食時間中は、栄養士が教室を見回り、食材の話やメニューの話をしたことで、食に対する興味が広がっている。 ・運動会も復活し、4年ぶりに1日通しての実施ができた。運動する機会を増やす取り組みも再開し、活発に体を動かす児童も増えた。	A	8	・元気いっぱいに運動会ができ、良かった。同窓会が寄贈したテントが役に立ってありがたく思う。 ・給食についての理解を知らせるのは、良いことだと思う。 ・あいさつが元気よくできる子が、多いと思う。 ・スポーツや運動に関して、いろいろな取り組みをされていると思う。栄養士の先生も子供たちに直接話しを聞いているのを見て、いいなと思った。 ・児童たちの運動不足を感じている。休み時間や放課後の少しの時間でもよいから、校庭で遊ぶなどしてもらえるとよい。なるべく外で遊ぶよう指導してほしい。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	3.4					B	2	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	3.4					C	0	
		感染症拡大防止・一人	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	3.4					D	0	
プラン5　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	3.2	◇児童の自己評価で、「授業で学習したことが分かる。」と回答した児童の割合 ◆保護者の学校評価で、「学校は、快適で安全な学校環境づくりに努めている。」「教員は、分かりやすい授業のために工夫している。」と回答した保護者の割合	4：全て90%以上 3：全て80%以上 2：全て70%以上 1：いずれも70%未満	4	・主任教諭が多い本校では、主任と若手が学年会で授業や指導方法についてよく話し合っている。この日常こそがOJTであり、指導力の向上につながっている。今後も、学年の協力体制を築き、若手のスキルアップも目指していきたい。 ・学校公開のアンケート結果では、「わかりやすい授業をしていた。」「活動が充実していた。」と回答した保護者が、昨年度から10%以上増えていた。日々の研究研修の成果が授業に現れている。 ・校内委員会を毎月実施することができ、支援の必要な児童に対して情報共有をし、組織的に対応することができた。	A	8	・工夫された分かりやすい授業を保護者も理解している状況はとても良いことである。今後も推進していってほしい。 ・若手教員は、主任のもとでチャレンジするなど鍛冶研磨してほしい。 ・工夫ある授業ができ、取り組みが良いと思う。 ・若手教諭を育てるシステムを増々進めていって欲しいと思う。 ・校内委員会を毎月実施していて、全体で共有することが大切である。教員の減少をよく耳にするので、若い先生のスキルアップやフォローを頑張ってほしい。 ・教職員の笑顔が年々減ってきているように感じている。快活さもコロナ禍を経て減っている。子供たちは敏感なので、多忙かと思うが教職員自身のケアも必要と感じている。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3：学期に1回（年間3回）以上行った。 2：年度間に1回以上行った。 1：実施しなかった。	2.9					B	2	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	3.2					C	0	
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4：月1回以上行った。 3：学期に2～3回行った。 2：学期1回以上行った。 1：実施しなかった。	3					D	0	
プラン6　学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4：月1回以上更新した。 3：学期に2～3回更新した。 2：学期1回以上更新した。 1：更新しなかった。	3.2	◆保護者の学校評価で、「お便りや学校ホームページにより、教育活動の様子を伝えている。」「チーム千鳥等の地域人材や施設を活用した教育活動に努めている。」と回答した保護者の割合	4：どちらも90%以上 3：どちらも80%以上 2：どちらも70%以上 1：いずれも70%未満	4	・ホームページを積極的に更新することで、情報発信することができた。特に、地域や卒業生の観覧も多いようで、本校の活動を広く知らせることができた。 ・地域連絡協議会では、放課後の様子や地域での子供たちの活躍を共有し、連携を深めることができた。 ・新型コロナ感染症が5類扱いになり、生活様式に変化がある中、PTAやチーム千鳥の多大なる協力のおかげで、全学年の教育活動を充実させることができた。 ・毎朝、校長をはじめ、複数の教職員が必ず校門の前に立ち、挨拶をして児童を出迎えている。挨拶の習慣が身に付くのに合わせ、児童の様子を把握することにつながっている。	A	9	・同窓会の開催の案内をHPに掲載していただけ、大変ありがたかった。 ・地域連絡協議会では、個々の発表を尊重することが大切だっと思う。 ・挨拶指導は、毎朝見ていてとてもよい活動だと思う。 ・ホームページを活用するのは、とてもよいと思う。 ・子供向けの地域の行事（お祭りなど）に先生方も見に来ていただき、そういう時の子供たちの姿を見てもらいたい。 ・ホームページの更新が素晴らしい。また、地域にお知らせという部分では「のぼり」もとてもよい取り組みだと思う。 ・ホームページの更新は大変よく、他校でも評判がよい。CS制度も始まると思うので、地域とよりよい関係が継続できるようPTAとも連携していければよいと思う。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4：毎回情報を提供した。 3：おおむね情報を提供した。 2：あまり情報を提供しなかった。 1：情報を提供しなかった。	2.8					B	1	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4：学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2：年1回以上行った。 1：実施しなかった。	2.9					C	0	
		保護者・地域と連携して「早寝・早起き・朝ごはん・あいさつ・宿題できたかな」運動を推進する。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	3.2					D	0	
学校独自	学校図書館の整備や司書教諭の配置などの充実に取り組み、読書活動の向上を図ります。	児童にとって魅力的な学校図書館となるように整備を行い、授業時間や休み時間の活用をはかる。	4：「週に1回以上活用した」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	3.2				・11月に家読（児童と保護者が家で読み聞かせ）の活動を取り入れたことで、家族で本に親しむ機会を増やすことができた。保護者からの感想も好評な意見が多く、次年度も継続していきたい。 ・年間を通して「50冊チャレンジ」を企画し実践している。読む本のジャンルを広げることができた。 ・「大きな木」による読み聞かせ活動が復活したり、図書の時間の最初に読み聞かせをしてあげたりしたことで、児童の聞く力によい変化が見え始めている。			・読み聞かせなどの活動は、とても良いことだと思う。 ・家読という活動が素晴らしい。継続にあたり、本質となる図書への親しみとして家を超えた取り組み、友読や姉兄読などもどうだろうか。 ・本をたくさん読むことの大切さを教えられ、良いと思う。 ・読み聞かせの機会が増えて、良かった。

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。